



Essex Furukawa Magnet Wire LLC

サステナビリティレポート

2022年8月



ビジョン 2030：持続可能な未来、私たちの原動力

CEO からの 手紙



「持続可能性は単に当社の未来というのではなく、これがまさに未来なのです」

未来へ向かって前進し続けるために Essex Furukawa Magnet Wire は、最終的な目標を達成するための原動力が、持続可能でなければならないことを認識しています。私どもは、ビジョン 2030 を策定し、すでに様々な活動を行っていますが、この活動を通じ、次の 10 年間、さらにその先で常に業界のリーダーとしての自覚を持ちたいと考えています。ビジョン 2030 は、2021 年に開始した当社の包括的な持続可能性プログラムであり、当社、お客様、そして地球全体をより健康にする機会であり続けます。

Essex Furukawa がコミットする持続可能性の要は、破壊的イノベーション、アジャイル デジタル化、グリーン生産です。当社のチームは、前にも増して効率的を追求し、かつ、多くを求められる仕様へのニーズに応えてきました。当社はお客様からの厳しい要求を拒むことなく、むしろ、新しい技術の開発、より持続可能な材料の活用、さらにはグリーン生産の方法の探求の動機づけとしています。Essex Furukawa は、環境に与える影響を抑えながら、より効率的なイノベーションと製造を行う方法の模索を続けて参ります。

このたび当社初の年次持続可能性レポートをまとめ、グローバルな持続可能性目標を発表する運びとなりました。本レポートは、2021 年 4 月にビジョン 2030 を最初に発表してから現在に至る当社の取り組みを反映したものであり、その目標を達成する道筋を示したものです。持続可能性の旅を共有する上でのチャレンジは、当社での設定目標を達成するのみならず、お客様の期待を超えることです。

Daniel Choi
最高経営責任者
Superior Essex Inc.
Essex Furukawa Magnet Wire LLC

目次

2 CEO からの手紙

4 会社概要

5 ビジョン 2030 の概要

6 グリーン生産

7 廃棄物埋め立てゼロ

7 エネルギー削減

7 再生可能エネルギー

7 炭素削減

8 破壊的イノベーション

9 アジャイル デジタル化

10 包括的な持続可能性

11 説明責任、報告、ガバナンス

13 廃棄物埋め立てゼロ

15 炭素削減目標

16 国連 SDGS パートナーシップ

17 サプライチェーンの透明性

18 責任ある調達

19 循環型経済

20 持続可能性リーダーシップ委員会

21 さらに未来へ向けて

22 付録

22 リソース

22 パフォーマンス データ表

会社概要

マグネット ワイヤ / 巻線製造の世界的大手 Essex Furukawa は、常にイノベーションとエンジニアリングの限界を押し広げています。こうした取り組みを世界中で主導することで、サービス提供先の顧客の永続的な成功を促進しています。120 年以上にわたって自動車、商業、住宅、産業、エネルギーの専門知識を積み上げてきた当社では、各市場担当チーム間で生み出されるメンバー相互の利益を実現した製品とサービスが、必然的に各チームの繁栄、ひいては顧客の繁栄につながっています。最新の電気自動車、電力変圧器、業務用発電機をはじめとして、未来の原動力となるマグネット ワイヤ / 巻線を製造しています。

北米、欧州、アジアをカバーする Essex Furukawa による銅製 / アルミニウム製マグネット ワイヤは、エナメル線、横巻線、押出巻線と広範囲にわたり、ゲージサイズにもメートルサイズにも対応します。当社は垂直統合された世界で唯一のマグネットワイヤーメーカーです。製品の設計、開発、調達、製造、配送、そして安定供給が、3つの大陸でシームレスにつながっています。

今日では、エナメル / ワイヤ開発や流通を中心に据えて自動車部門の拡大を重視した戦略的事業統合により、当社の製品ポートフォリオはグローバルに拡大し続けています。Essex Furukawa は、マグネット ワイヤ製品のイノベーションと製造におけるリーダーとしての地位を確立しています。

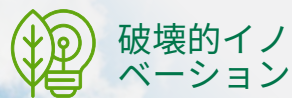


持続可能な未来、 当社の原動力

ビジョン 2030



二酸化炭素排出量を削減し、「廃棄物埋め立てゼロ」オペレーションをグローバルに実施することで、持続可能性への取り組みを主導する



顧客とのパートナーシップ、顧客に対するサポートにより、市場を変革する製品とサービスを開発する



完全に統合され、持続的に自動化され、社会的責任を果たすことで、デジタルに精通した組織になる

2021年4月、Essex Furukawa は、当社の未来を形作るイニシアチブ、ビジョン 2030：持続可能な未来、当社の原動力を発表しました。当社が行う決定、パートナーシップ、投資はいずれも、この共通の目標によって推進されます。最終的に目指しているのは、現世代のニーズをサポートしながら、将来世代のニーズに応えていくことです。Essex Furukawa のコアバリュー、グリーン生産と破壊的イノベーションとアジャイル デジタル化は、このビジョンの達成に向けて努力するための柱です。

Essex Furukawa のグリーン生産とは、すべてのコアバリューを貫く共通項です。これは、当社で行う生産だけでなくサプライチェーンにも好影響を与えるのと同時に、顧客のグリーン生産をもサポートし、炭素削減目標が達成できるよう支援するものでもあります。

破壊的イノベーションの目標はマグネットワイヤ業界を変革することであり、そのためには、サプライチェーンを通じて、技術の進歩をサポートし推進する製品、機器、製造方法を導入します。つまり、Essex Furukawa は100年以上の歴史があるマグネットワイヤ技術を破壊する新しい技術を開発し、顧客を材料、製品、機器の破壊的技術でサポートするのに加え、当社の技術を活用した顧客の製品性能の強化を支援することによって、持続可能性への取り組みをサプライチェーンの上流から下流までサポートします。

当社のアジャイル デジタル化のコアバリューとは、当社の従業員、顧客、サプライヤー、パートナーとのビジネス上のコラボレーションがシームレスになるテクノロジー環境により、世界クラスでデジタルに精通した企業になることです。Essex Furukawa がビジョン 2030 に向けて前進する中、社内チームが注力するのは、数あるデータを価値ある情報に変換することと、製造部門の従業員にリアルタイムで洞察を提供して優れた意思決定ができるようにすることで、競争力を高めることです。



グリーン 生産

グリーン生産に関する当社のビジョン 2030 ミッションは、マグネットワイヤ製造において持続可能なソリューションを創成するリーダーとして、世界的に認められることにより、現在だけでなく将来のニーズを満たし、顧客が持続可能性に対する取り組みを継続できるようサポートすることです。

グリーン生産では、次の4つのつながりに沿って、**ビジョン 2030 の目標を達成します。**

- > 世界中のすべての施設での「廃棄物埋め立てゼロ」ステータスの達成と保持
- > 再生可能エネルギー活用確立と取り組み
- > エネルギー削減目標の設定と取り組み
- > 炭素削減目標の設定と取り組み

イニシアチブ	3年目標 (2023)	7年目標 (2027)	10年目標 (2030)
廃棄物埋め立てゼロ (ZWTL) ¹	世界中のすべての工場 ZWTL ステータスを達成する	ZWTL オペレーションを グローバルに監視して維持する	ZWTL オペレーションを グローバルに監視して維持する
再生可能エネルギー ¹	再生可能エネルギー利用率 17%	再生可能エネルギー利用率 27%	再生可能エネルギー利用率 32%
エネルギー削減 ¹	エネルギー削減率 3%	エネルギー削減率 6%	エネルギー削減率 10%
炭素削減 ²	該当なし	該当なし	炭素削減率 20% ³

¹ 2019 ベースラインを使用

² 2021 ベースラインを使用

³ 炭素目標達成率は SBTi 検証待ち

ZWTL : Zero Waste To Land



廃棄物埋め立てゼロ

持続可能な未来への道を歩み続けることは、Essex Furukawa の活動の中心であり続けています。グリーン生産を洗練されたものにするための取り組みには、当社のマグネット ワイヤ工場、金属加工施設、化学処理場すべてにわたって廃棄物埋め立てゼロ (ZWTL) を達成することが含まれます。工場で ZWTL ステータスを達成するには、施設から出るすべての廃棄物の少なくとも 98% が、埋立地からも、廃棄物の流れを受け止める下流の材料管理組織からも、転換されなければなりません。

進捗状況

- > ZWTL ステータスを達成した工場 8 か所



エネルギー削減

エネルギー削減イニシアチブには、今後のマイルストーンとしている 2023 年、2027 年、2030 年での Essex Furukawa 工場のスコープ 1/ スコープ 2 エネルギー源 (つまり燃料と電力) のすべての削減予想が含まれます。すべてのエネルギー削減計算結果は、工場で生産に対するエネルギー効率が向上したかを示すこととしています。

進捗状況

- > 2021 年には 2019 ベースラインとの比較でエネルギー削減率 1.3% を達成



再生可能エネルギー

Essex Furukawa で定義する再生可能エネルギーは、再生がしやすい天然資源やプロセスに由来するクリーン エネルギーです。調査対象の再生可能エネルギーには、太陽光、水力、風力などがあります。エネルギー削減目標とは異なり、再生可能エネルギーの進捗状況は総エネルギー消費量に基づいています。当社は、再生可能エネルギープロジェクトを世界中の各サイトで実施する可能性を継続的に調査研究することで、スコープ 2 のカーボン インパクトを低減するのに加え、可能な限りグリーン エネルギー生産を実現していきます。

進捗状況

- > 2021 年の再生可能エネルギー利用率 0.13%



炭素削減

スコープ 1/ スコープ 2 の炭素削減目標を設定する際に、Essex Furukawa は、当社のグローバル全拠点で温室効果ガス排出量を削減するという意図を明確に表明しました。当社では、組織として、また顧客の炭素削減目標をサポートするため、そうした削減への道筋を定義しました。Essex Furukawa では SBT (Science Based Targets) を温室効果ガス プロトコルに従って設定しており、2030 年までにスコープ 1/ スコープ 2 の排出量を 20% 削減するという目標の達成を目指しています。こうした削減目標と進捗状況を伝えることで、Essex Furukawa は、さらなるアクションにつなげていきます。バリューチェーンの上流でも下流でも、カーボン インパクトを地球全体で低減するために。





破壊的イノベーション

Essex Furukawa は、材料と製造方法での破壊的イノベーションを創出する能力を自社で評価します。つまり、当社は 2030 年までに次の事柄にめどをつけます。

- > 有害な溶媒を使用しない破壊的新製品
- > プロセスのイノベーションと新生産方式の拡大
- > 日本にある当社 R&D イノベーション センターで特別に開発された新製品と新生産方式では二酸化炭素排出量を 50% 削減

さらに、当社は 2050 年には、日本にある R&D イノベーション センターで開発するすべての新製品と新生産方式が、カーボン ニュートラルでありたいと考えています。

Essex Furukawa は、破壊的イノベーションを通じて、すべてにとって持続可能な未来をサポートすることに取り組んでいます。顧客とのコラボレーションで、エネルギー、商業、住宅、産業、自動車市場を新技術で支援することが、当社による低炭素経済のサポートに他なりません。

より具体的には、次に挙げるようなことが可能になり、バリューチェーン全体の改善につながる、と考えています。

- > 電気自動車 (EV) の普及を実現し、さまざまな交通手段の効率性をサポートする
- > 再生可能エネルギー技術を実現することにより、エネルギー部門とユーティリティ部門の発展をサポートする
- > 省エネルギー技術により建物の電化をサポートする
- > 産業のライフ サイクル全体で環境への影響を低減するのを支援する





アジャイル デジタル化

建物、通信、テクノロジーをデジタル化すると、現在そして未来にわたって、すべてのインフラストラクチャの相互接続が実現し、次の手段を通じて、より持続可能な世界がサポートされるようになります。



完全 統合

データとサプライチェーンが相互運用可能なシステムへセキュリティをもって接続されるようサポートし、グローバルな業界標準に沿って、デジタルエコシステム間の接続を実現する完全統合



グリーンテクノロジー

グリーンIT（情報技術）に加えグリーンOT（運用技術）を定義し、電子廃棄物の100%リサイクルと電力効率の高い運用を可能にするプラットフォームと技術を開発する



持続可能な自動化

データ収集のプロセスを合理化し、持続可能性に関連する測定基準を設定することで、グリーンリサイクルを活用し、人間と機械との間での調和のとれた相互作用を可能にする



社会的 影響

国連の持続可能な開発目標（UN SDGs）への取り組みにより、サービスを提供するコミュニティに社会的価値をもたらす

当社は目標を達成するため、リアルタイムにデータに基づいた意思決定を行うことで運用効率を高めるグローバルな取り組みの中で、トランスフォーメーションとなる運用分析の実装を拡大しています。また現在は、運用関連のインサイトとデータを統合するためのいくつかのテクノロジーを実装するとともに、クラウドベースのテクノロジーを活用して、二酸化炭素排出量を削減しています。

Essex Furukawa では、高度な運用技術によるビジョン 2030 ミッションを次の 10 年で完了できるよう複数の成果を実現することに重点を置いています。

- > データ、情報、システムを安全に保つのに最適な組み合わせのサイバーセキュリティ機能を実装する
- > IT と OT のコンバージョンによる相乗効果を活用し、世界クラスの IT/OT 機能を当社のビジネスで実現する
- > 人工知能と機械学習を活用して、世界中のすべての施設にわたって生産システムの効率を向上させる
- > アジャイルな働き方を導入し、顧客のニーズに最適なサービスを提供するためのテクノロジーと知識でローカルチームを強化する
- > 持続可能性に関する各データを活用して、戦略的意思決定のための情報源とする
- > ブロックチェーンを利用して、サプライチェーンの透明性とエンド ツー エンドの製品ライフ サイクル分析を探究する

包括的な持続可能性

ビジョン 2030 の目標を達成するため、Essex Furukawa では持続可能な未来を達成するための包括的アプローチの定義をさらに進めて、具体的で測定可能なアクション アイテムを構成する7つの観点を花卉に見立て、成功度を測定するだけでなく組織内の改善を促す一助としています。





説明責任、報告、ガバナンス

Essex Furukawa は一企業として持続可能性と環境保全に高い価値を置いています。複数の環境指令や規制に準拠することは、当社のコミットメントとなります。データ、目標、測定基準について一貫性をもってお知らせする取り組みにより、当社は透明性を社内外で確立することができます。当社は、影響低減の進行状況を追跡し、自社の持続可能性レポートを作成し、社会的責任への取り組みを促進するために、持続可能性リーダーシップ委員会を設立しました。

説明責任と報告

- > Carbon Disclosure Project (CDP): Essex Furukawa は CDP – 企業が環境への影響を管理するためのグローバル開示システム – を通じて顧客に対し、進捗状況を報告します。
- > EcoVadis: Essex Furukawa は多くの顧客に対し、EcoVadis を通じて報告しています。EcoVadis は、企業の持続可能性のビジネスへの統合を評価するための持続可能性査定ツールです。EcoVadis: 企業の社会的責任と持続可能な調達を評価するための評価プラットフォーム
- > The Copper Mark Partnership: The Copper Mark は、銅産業内で責任ある生産慣行を促進するための保証フレームワークです。Essex Furukawa の親会社 Superior Essex は、2021 年 5 月に The Copper Mark の 8 番目の企業パートナーとなりました。

- > The Copper Mark Semis-Fabricator Pilot Certification: Essex Furukawa は 2021 年 10 月に The Copper Mark との関係を拡大し、パイロット認定プログラムへの参加に関しては加工業者パートナーとして参加しました。
- > 環境認証: Essex Furukawa では、環境への影響を意識することが重要です。当社の工場の多くは、世界中でコンプライアンスの環境認証を受けています。詳細については、付録を参照してください。
- > 国連の持続可能な開発目標との整合性: 国連の SDGs プログラムは、持続可能な開発のための 2030 アジェンダの一部として 2015 年に開始し、17 の持続可能な開発目標が定められています。この SDGs は、先進国か発展途上国かを問わず、グローバル パートナーシップを結ぶすべての国による緊急の行動要請です。すべての国々は、貧困などの欠乏を終わらせるために、健康と教育を改善し、不平等を是正し、経済成長を促進すると同時に、気候変動問題に取り組み、海と森林を保護するという戦略で連携しなければならない、ということ認識しています。
- > 廃棄物、エネルギー、再生可能エネルギー、炭素削減目標を設定し、公にコミットします。
- > 調査とアンケートにより、顧客の要求を満たします。¹

¹ SupplyOn、Carbon Disclosure Project、EcoVadis、サプライヤー保証自己評価アンケート (SAQ)、Assent

ガバナンス

Essex Furukawa は、高品質製品の製造/提供と優れた顧客サービスで、インテグリティが最も高水準の企業としての評判を得ています。当社が誇りとするのは、何を達成しているかだけでなく、どのように成功を収めているかでもあります。この評価を維持していきたいです。当社は責任ある企業市民として振る舞いながら、顧客、従業員、ステークホルダーの利益を最優先するための努力を続けています。このコミットメントには、何よりもまず、最高の倫理的/法的基準に従って行動することが求められます。

最高水準のインテグリティに対する当社のコミットメントは、Essex Furukawa のすべての従業員がコアバリュー、すなわち、どのように行動するかを定義する価値観を確実に理解することから始まります。こうした価値観は当社倫理綱領の礎です。詳細とガイダンスについては、当社ビジネス行動規範を参照してください。

- **サプライヤー行動規範** | Essex Furukawa は、すべての材料とサプライヤーの決定で持続可能性と企業のビジョンを確実に最重要視していることをお約束します。サプライヤー行動規範と調達戦略の更新で焦点を当てるのは、廃棄物による影響を全体的に低減し、製品のリサイクル/再利用能力を向上し、サプライヤーにも環境に対する責任を担っていただきながら、環境全体への影響を低減し二酸化炭素排出量を削減することです。
- **人権方針** | Essex Furukawa とその子会社は、すべての行いでインテグリティをもって行動することを約束します。当社は、世界中の人権の発展を尊重し、保護し、支援する方法で事業を行うことに専念しています。当社は、責任あるインテグリティベースの事業を行うため、国連の世界人権宣言にある国際基準の原則（無差別、機会均等、結社の自由、団体交渉の自由、現代の奴隷制や人間の人身売買や有害でも搾取的でもある形態の児童労働の撤廃など）を支持しています。

- **紛争鉱物に関するポリシー** | Essex Furukawa とその子会社は、コンゴ民主共和国（DRC）での暴力の撲滅という人道的目標を支持し、サプライチェーン全体で紛争鉱物の責任ある調達に取り組んでいます。したがって、Essex Furukawa はこの紛争鉱物に関するポリシー（「ポリシー」）を採用しており、すべてのサプライヤーが同様のポリシーを採用し、本ポリシーに定められた期待に応えるよう望んでいます。このポリシーを支持するEssex Furukawa は、DRC コンフリクトフリーの紛争鉱物を含む製品のみを購入します。Essex Furukawa は、紛争鉱物の存在とその調達先について判断するため、製造し流通させる製品すべてに関してデューデリジェンスを実施しました。
- **環境方針** | 環境に配慮した方法で業務を遂行することは、Essex Furukawa の既定方針です。当社は、空気、水、土地などの天然資源を含む自然環境を維持し保護するため、当社の活動、製品、サービスの環境への影響を低減ことに取り組んでいます。
- **Dollars for Doers** | Essex Furukawa には、従業員がプライベートな時間にボランティア活動を行う際のプログラムがあります。従業員が適格な非営利団体 501 (c) (3) にボランティア時間を寄付すると、Essex Furukawa はその適格な非営利団体に助成金を提供します。プログラムには柔軟性を持たせ、従業員個人にとって最も重要なボランティア活動の分野に注力することが許容されます。



廃棄物埋め 立てゼロ

2021年には、持続可能性コンサルティング組織が Essex Furukawa と提携して、当社のすべての工場で廃棄物埋め立てゼロ (ZWTL) アセスメントを実施しました。その結果は、北米の 3 拠点、欧州の 3 拠点すべて、中国と日本の事業所で、これは、いかなる埋め立て廃棄物を発生させていないということになります。

北米では、3 拠点で廃棄物埋め立てゼロを達成することができました。

- インディアナ州フランクリン (米国) マグネット ワイヤ工場ですでに転換率 100% を達成、つまり廃棄物が埋め立て地に送られていないということです。
- トレオン (メキシコ) のマグネット ワイヤ工場は転換率 99% を達成。
- インディアナ州フォートウェイン (米国) の化学処理施設では転換率 98% を達成しました。

北米の他の工場のうち、2 か所のマグネット ワイヤ工場 (インディアナ州フォートウェイン (米国) とシムコー (カナダ)) での転換率はそれぞれ 97% と 96% でした。フォートウェインでは、残り 3% の廃棄物が見落としに起因するものであったとわかったため、より適切な工場管理プロセスによって是正されます。シムコーでは、廃棄物の 1% が誤って埋め立て地に送られており、今後すみやかに改善されます。他の 2% は、緩和と低減を実施する対象とされています。

インディアナ州コロンビアシティ (米国) にある金属加工センター (MPC) では転換率 96% を達成しました。さらに、MPC は 2021 年に、廃水も 75% 近く低減しました。不純物の除去を補助し廃水を低減するサイドストリーム フィルターとなる層をろ過システムに追加導入したことによるものです。

最後に、テネシー州フランクリン (米国) の マグネット ワイヤ工場では、ZWTL アセスメントで達成された転換率が 83% でした。工場廃棄物の 14% が廃水であることが判明しており、現在、その廃棄物の流れをさらに低減して転換する方法を特定するための研究が行われています。



欧州では、3 拠点すべてで廃棄物埋め立てゼロを達成しました。

- ズレニャニン（セルビア）とブラームシェ（ドイツ）は、転換率 100% であると判断されました。
- パートアーロルゼン（ドイツ）で達成した転換率は 98% でしたが、廃棄物の 1.47% は下流の廃棄物管理によるものであり、99% を超える見込みと特定されました。

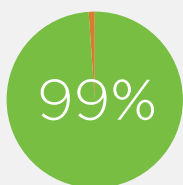
アジア太平洋市場で分析が可能な拠点は、2 か所とも廃棄物埋め立てゼロを達成していると判断されました。マレーシアの 2 工場の分析については、サードパーティによる検証待ちです。

- 三重（日本）のアセスメントで得られた結果は、転換率 100% でした。
- 蘇州（中国）の分析では、転換率 99% という結果でした。残り 1% のほぼすべてが腐敗性廃棄物であったため、堆肥化を開始するようにと勧告されました。
- ペナン（マレーシア）は暫定的に 95% を達成し、クアラルンプール（マレーシア）は暫定的に 94% を達成しましたが、コロナ禍に起因する遅延により、これらのアセスメント結果はまだサードパーティの材料管理組織によって検証されていません。

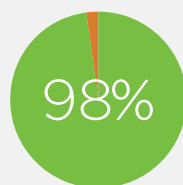
ZERO WASTE TO LANDFILL



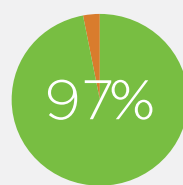
インディアナ州フランク
リン
マグネットワイヤ工場



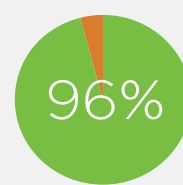
トレオン
（メキシコ）
マグネットワイヤ工場



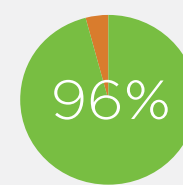
インディアナ州
フォートウェイン
化学処理工場



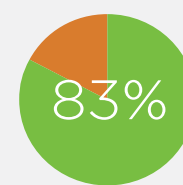
インディアナ州
フォートウェイン
マグネットワイヤ工場



シムコー
（カナダ）
マグネットワイヤ工場



インディアナ州コロ
ンビアシティ
金属加工センター



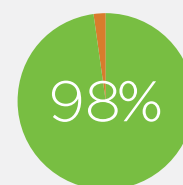
テネシー州フラン
クリン
マグネットワイヤ工場



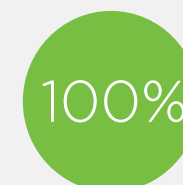
ズレニャニン
（セルビア）
マグネットワイヤ工場



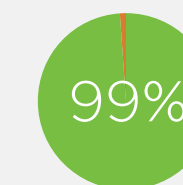
ブラームシェ
（ドイツ）
マグネットワイヤ工場



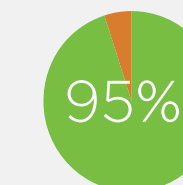
パートアーロルゼ
ン（ドイツ）
マグネットワイヤ工場



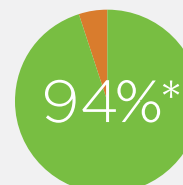
三重
（日本）
マグネットワイヤ工場



蘇州
（中国）
マグネットワイヤ工場



ペナン
（マレーシア）
マグネットワイヤ工場



クアラルンプール
（マレーシア）
マグネットワイヤ工場

* 暫定値。最終アセスメントはコロナ禍のため保留中。



炭素削減目標

温室効果ガスの削減は、Essex Furukawa の将来と地球の未来にとって大きな関心事です。世界中のマグネット ワイヤ施設で実行可能な CO₂ 排出量削減計画の研究開発を行っています。当社は、温室効果ガス プロトコル (GHG) で推奨される基準を使用して炭素削減目標を設定しており、この目標を Science Based Targets Initiative (SBTi) に提出して検証を行っています。これらの目標は、組織として温室効果ガス排出量を削減するための道筋を形成するのに役立つものです。当社が炭素削減目標に従業員や顧客に伝えることで、さらなるアクションがバリューチェーンの上流でも下流でも引き起こされる、と考えます。



Essex Furukawa は、自社の持続可能性への取り組みを国連の持続可能な開発目標の取り組みに沿って、国連 SDGs の 17 の目標のうち 11 の目標にコミットしています。¹ このパートナーシップにより、当社は、他の組織と共に共通の目的と行動の機会を特定すると同時に、すべての人々にとってより良い、より持続可能な未来を達成するために協力することができます。

¹ Superior Essex として親会社レベルでコミット。



国連 SDGs パートナー シップ

11 の目標

持続可能な開発目的

<p>目標 3</p>	<p>健康と福祉 ・ 環境方針</p>	<p>目標 5</p>	<p>男女平等 ・ 人権方針</p>		
<p>手頃な価格のクリーンエネルギー ・ 再生可能エネルギー目標</p>	<p>目標 7</p>	<p>ディーセントワークと経済成長 ・ Copper Mark ・ 破壊的イノベーション ・ 人権方針</p>	<p>目標 8</p>	<p>産業、イノベーション、インフラストラクチャ ・ エネルギー削減目標 ・ 再生可能エネルギー目標 ・ 破壊的イノベーション</p>	<p>目標 9</p>
<p>目標 10</p>	<p>人や国の不平等をなくそう ・ 人権方針 ・ Copper Mark</p>	<p>目標 11</p>	<p>住み続けられるまちづくりを ・ 環境方針 ・ 大気への排出許可 ・ 破壊的イノベーション ・ トレオンでの雑排水の再利用</p>	<p>目標 12</p>	<p>作る責任、使う責任 ・ Copper Mark ・ ZWTL ・ 説明責任と報告 ・ 持続可能な調達方針 ・ トレオンでの雑排水の再利用</p>
<p>気候行動 ・ エネルギー削減目標 ・ 再生可能エネルギー目標 ・ 炭素削減目標</p>	<p>目標 13</p>	<p>平和と公正をすべての人に ・ 人権方針 ・ Copper Mark ・ 持続可能な調達方針</p>	<p>目標 16</p>	<p>パートナーシップで目標を達成しよう ・ 11 の目標との合致 (国連 SDGs の 17 の目標のうち)</p>	<p>目標 17</p>



サプライチェーン の透明性

Essex Furukawa は、サプライチェーンの下流でも上流でも環境および社会への影響を理解する責任を負い、この知識を社内外に伝えます。そうすることにより、Essex Furukawa は影響を低減できると同時に、顧客の影響低減目標をサポートできます。当社のチームでは、サプライチェーンマッピングを行い、実践と業績に関する情報を収集するほか、潜在的なリスク、改善の機会、情報のギャップについて調査しています。

このイニシアチブを達成した方法の1つは、The Copper Mark との関係拡大により、パイロット認定プログラムへの参加に関して加工業者パートナーとして参加したことです。この認定により、当社のマグネットワイヤ製品が倫理的かつ責任ある方法で製造されていることが確実になります。



責任ある 調達

サプライチェーンの透明性を達成していると、誰と協業するかについて十分な知識に基づいた決定を下すことができます。Essex Furukawa は、当社の製造工程（銅を含む）で使用される材料の責任ある調達に重点を置いています。このアプローチは、倫理的かつ社会的に責任のある、持続可能な方法で製品を調達することを積極的に意識するものです。

そうしたオプションの1つは、The Copper Mark との既存のパートナーシップです。当社の製品で最大の影響のいくつかは銅抽出に起因することを認識している当社は、銅のバリューチェーンでの持続可能性とはどのようなものかをより明確に定義するため、The Copper Mark のパートナーとなりました。現在、北米で調達される銅の83%はThe Copper Mark によって認定されています。また、当社は調達先を世界中で積極的に探しています。

さらに、当社は、低炭素銅サプライヤーとの戦略的調達パートナーシップを通じ、欧州の顧客に革新的なソリューションを提供することでそのサプライチェーンの二酸化炭素排出量に対処し改善することのできる、唯一無二の立場にあります。戦略的サプライヤーから調達することにより、Essex Furukawa は、深く根付いた安全についての文化を通じて、社会的責任を果たす資源を提供する

ことを確実にします。当社の低炭素銅サプライヤーが製造する銅カソードは、1 kg あたりの CO₂ 排出量が 1.5kg 未満です。これは、国際銅協会 (ICA) が提示した世界平均の半分にも至りません。

このように当社は、すべての業務を通じて責任ある調達を実施すること、サプライチェーンへの影響を軽減すること、イノベーションを可能にすることを完全に統合した持続可能な購買ポリシーの開発に取り組んでいます。





循環型 経済

Essex Furukawa では循環型経済を、気候変動、生物多様性喪失、廃棄物、汚染など地球規模の課題に取り組む経済システムと見なしています。ビジョンの柱に沿うことは自ずと、製品のライフサイクルを改善し、二酸化炭素削減の目標に貢献し、顧客の価値観に沿うシステムを構築することと考えます。

Essex Furukawa は、マグネット ワイヤを顧客の製造現場へシームレスに配送できるようにするため、特別な注意を払っています。持続可能性を心がけた事業で、製品を配送するために使用される梱包材は、リサイクル素材が最大 30% です。ここでの梱包材は、*Essex Furukawa* 梱包材返却プログラムによって完全に再利用可能です。



持続可能性 リーダーシッ プ委員会

Essex Furukawa 持続可能性リーダーシップ委員会 (SLC) は、ビジョン 2030 のイニシアチブをさらに前進させるために設立されました。SLC には、組織全体から選抜された主要ステークホルダーがおり、事業に関してバランスがとれていながらさまざまに異なった視点を提供しています。このグループは定期的に会合を開き、社内外のコミュニケーションからのインサイトを提供するほか、包括的な持続可能性への取り組みの将来に関する提案を行います。SLC の目標は、ビジョン 2030 が当社の意思決定に常に存在するようにすることです。

SLC に加えて、2021 年には 2 つの小委員会、「イノベーション」と「責任ある調達」が開設されました。今後アジャイル デジタル化の柱の進捗状況を追跡するための小委員会が計画されています。



イノベーション小委員会

SLC では、破壊的イノベーションに焦点を当てた小委員会の重要性を認識しました。グローバル R&D 担当上級副社長目崎正和が小委員会を率い、生産に使用される材料の影響を軽減することに特に注意を向けることを重視して破壊的イノベーションを検討します。「目標はマグネット ワイヤ業界を変革することであり、そのためには、技術の進歩をサポートし推進する製品、機器、製造方法の導入する」と目崎は述べています。

新製品導入 / イノベーション担当副社長マット・リーチは、持続可能な製品を研究開発し、世界中の工場にグリーン生産を適用する方法を探求すべく、小委員会に加わりました。

責任ある調達小委員会

Essex Furukawa は、サプライチェーンの下流でも上流でも環境および社会への影響を理解する責任を負い、この知識を社内外に伝えます。当社のチームでは、サプライチェーン マッピングを行い、実践と業績に関する情報を収集するほか、潜在的なリスク、改善の機会、情報のギャップについて調査しています。

戦略的調達担当グローバル副社長スコット・ワイルドは、すべての材料とサプライヤーの決定で持続可能性とビジョン 2030 を確実に最重要視するための小委員会を率っています。ワイルドとそのチームは、持続可能な調達戦略での現在のギャップに対処して将来の可能性に対応します。

さらに 未来へ向けて

Essex Furukawa は包括的な持続可能性の旅に出ましたが、最初のレポートを出したら終わりというわけではありません。これは、当社が歩み出した旅の初めにすぎないのです。目標に到達するため、これまでに行われてきたことを認め、それをベンチマークし、将来に向けた行動方針を設定することが重要です。ビジョン 2030 では、新しいイニシアチブ、さらなる開発、そして当社のプロセスを洗練されたものすることにより、次の 10 年をリードします。

近い将来では、

- 2023 年には「廃棄物埋め立てゼロ」ステータスをすべての工場達成
- 持続可能な調達方針を策定
- スコープ 3 炭素アセスメントを完了し削減戦略を完成
- 製品のライフ サイクル アセスメント ツールについて調査
- 再生可能エネルギーへの投資
- アジャイル デジタル化小委員会を結成
- 社会的持続可能性と人権にさらに注力

等を計画しています。



付録

リソース

ビジョン 2030 をサポートするイニシアチブで進行中のものは次のとおりです。

- > [The Copper Mark の加工業者パイロットへの参加](#)
- > [欧州で実施されるアジャイル デジタル化ソリューション](#)
- > [フェノール処理で環境への影響を改善、ビジョン 2030 の要請に応える](#)
- > [パッケージングの環境負荷軽減により循環型経済がビジョン 2030 の最前線へ](#)
- > [ショート・リール・イニシアチブ（梱包効率化）](#)
- > [MagForceX® イノベーションセンターを蘇州（中国）に新設](#)
- > [金属加工センター（MPC）で水使用量を 30,000 ガロン低減](#)
- > [廃棄物埋め立てゼロ（ZWTL）調査結果](#)
- > [国連 SDGs との合致](#)
- > [トレオン（メキシコ）の当社施設での雑排水の利用](#)

持続可能性の最新ニュースについては当社 [ウェブサイト](#) にアクセス

当社の四半期刊 [ニュースレター](#) へサインアップしてください。

> 保証プロセス

- SMS Collaborative, LLC
- Keramida, Inc.

> 環境認証

- *ISO 14001-2015*
 - ブラムシェ（ドイツ）マグネット ワイヤ工場
 - パートアーロルゼン（ドイツ）マグネット ワイヤ工場
 - ズレニャニン（セルビア）マグネット ワイヤ工場
 - クアラルンプール（マレーシア）マグネット ワイヤ工場
 - ベナン（マレーシア）マグネット ワイヤ工場
 - 蘇州（中国）マグネット ワイヤ工場
 - トレオン（メキシコ）マグネット ワイヤ工場
 - インディアナ州コロンビアシティ（米国）金属加工センター
 - インディアナ州フランクリン（米国）マグネット ワイヤ工場（検証待ち、2022 年予定）
- *ISO 50001-2018/2011*
 - ブラムシェ（ドイツ）マグネット ワイヤ工場
 - パートアーロルゼン（ドイツ）マグネット ワイヤ工場
- *ISO 45001-2018*
 - 蘇州（中国）マグネット ワイヤ工場
 - ベナン（マレーシア）マグネット ワイヤ工場

クリックして外部リソースへ移動



付録一 続き

パフォーマンス データ表¹

> 温室効果ガス排出量 (GHG)²

	2021
スコープ1 (CO ₂ e トン)	94,965
スコープ2 (CO ₂ e トン)	136,742
スコープ3 (CO ₂ e トン) ³	3,874,458
合計 (スコープ1とスコープ2) (CO ₂ e トン)	231,707

> エネルギー消費量 (MWh/MT)

	2019	2020	2021
非再生可能燃料購入量と消費量	1.460	1.470	1.410
非再生可能電力購入量	0.840	0.860	0.860
非再生可能エネルギー総消費量	2.290	2.500	2.270
再生可能エネルギー総購入量または総生成量	0.004	0.004	0.003
エネルギー総消費量	2.300	2.500	2.270

¹ 値に含まれるのは当社のマグネットワイヤ製造拠点のみでの大気への排出量、水使用量、エネルギー消費量

² 温室効果ガスプロトコルの市場ベースのアプローチに従ったもの

³ 推定スクリーニング値

> 廃棄物転換

	2019
世界全体での廃棄物転換率	96.7%

> 大気への排出量

	2019	2020	2021
有機化合物 (MT)	134	160	189

> 水使用量 / 使用状況 (m³)

	2019	2020	2021
総取水量	588,055	551,677	539,155
総排水量	420,110	402,936	369,808

> 環境事象

	2019	2020	2021
報告対象となる危険または有毒な化学物質の流出または放出	0	0	0
重要な環境事象の数	0	0	0

付録一 続き

> 安全衛生実績

	2019	2020	2021
業務上災害死亡者総数	0	0	0
従業員の記録災害度数率 ⁴	12.1	10.8	11.0

> 従業員デモグラフィクス⁵

	2019	2020	2021
従業員数	1,711	2,062	2,112
30歳未満	—	—	18%
30～50歳	—	—	52%
50歳超	—	—	31%
女性従業員総数	—	—	13%
指導的地位 (マネージャー以上)にある女性 の総数	—	—	25%

⁴ 国際的な災害度数率

⁵ 高齢者と女性の雇用状況 (2019年と2020年は追跡せず)

> 人権

	2019	2020	2021
大規模人権侵害件数	0	0	0



10-2022
©2022 Essex Furukawa Magnet Wire LLC All Rights Reserved

essexfurukawa.com